

(女性獣医師支援対策検討委員会報告書抜粋)

獣医師の働き方改革の促進

—女性獣医師活躍推進のために—

令和元年6月

はじめに

平成11年に男女共同参画社会基本法が制定され、翌12年に第1次基本計画が閣議決定された。当時、なぜ女性だけか、逆差別だ、能力で判断すればよく女性にだけ特別な計画など必要ない、といった議論があったとのこと。しかし、基本法は、積極的な改善措置は逆差別ではない、目的と手段の程度が必要な範囲内であれば逆差別と解してはならない、としている。

その後、平成24年、女性の活躍推進は経済戦略の中核に位置づけられ、女性活躍推進法が制定されて28年に全面施行された。あわせて、女性の活躍を推進するには男女ともに働き方改革が必要であるため、30年に働き方改革関連法が制定され、令和元年度から時間外労働の上限規制が導入される等日本社会全体で取組みが加速化されている。

日本獣医師会においては、平成25年に「女性獣医師支援特別委員会」が設置され、アンケート調査、就業継続や復職のための方策の検討等を行い、その結果を27年に報告書「女性獣医師がより活躍できる環境づくりに向けて— 獣医師全体のワーク・ライフ・バランス改善のために—」にまとめた。委員は各職域の第一世代を中心とする10名の女性獣医師(参考1)で、「女性獣医師だけに着目するのではなく、すべての獣医師が活躍しやすい環境づくりをめざそう」というコンセプトで議論が進められ、必要な対策がきめ細かく提案された。

提案された対策を実現するために、平成27年に、職域総合部会の個別委員会として「女性獣医師支援対策検討委員会」が設置された。管理職、診療施設の院長である委員(参考2)により、対策の具体的な進め方、さらなる課題について議論し、対策を進め、進捗状況と残された課題等を29年に報告書「女性獣医師がより活躍できる環境づくりの推進— 獣医師全体のワーク・ライフ・バランス改善のために —」にまとめた。この報告書でも新たな対策が提案された。

平成29年、新たな委員による「女性獣医師支援対策検討委員会」が設置された。委員は、診療施設、行政機関、大学の管理職等11名の女性獣医師で、うち5名は地方獣医師会の理事等である(巻末委員名簿)。残された対策は実現が難

しいものが多かったが、メールでの意見交換等も含めて議論を重ね、可能な限り進めた。その進捗状況と残された課題への考え方等を取りまとめ、加えて、これまでの委員会でも繰り返し指摘されてきた女性獣医師の獣医師会加入促進に、つながることを期待したい新たな取組みについても報告する。

おわりに

女性獣医師の増加にともなって日本獣医師会の女性会員数が増加しているわけではなく、女性獣医師の加入率は依然として低い。このことにも、固定的性別役割分担意識(男性の院長が加入していればよろしい、といった慣習など)が影響しているのかもしれない。この固定的性別役割分担意識は、男性だけではなく、女性の間にも世代によって異なった温度差で存在しているようであり、平成27年末に決定された「第4次男女共同参画基本計画」でも「男性中心型労働慣行の変革と女性の活躍」として意識改革の必要性を最初に掲げていることを紹介しておきたい。

大学卒業時の就職先は必ず把握されているが、いったん離職した卒業生のその後の動向を把握している大学は少なく、日本獣医師会における対応が期待されている。そのためには、学生会員の会費負担をさらに軽減すること等により、女子学生に限らず学生全体の加入率を上げる工夫が必要であると考ええる。

女性の出産・育児だけでなく、転勤、介護等の事情によって、休会、退会を希望する獣医師が、獣医師会から離れてしまうことのないように、再入会や地方獣医師会間の異動等の手続きを簡素化しておくことも大切だと考える。

先進的な取り組みを実践している地方獣医師会もあるため、今後積極的に紹介していくこととともに、日本獣医師会での検討を求められている事項については担当の委員会において対応してもらおうよう、委員会としても求めていきたい。

現状に悩みを抱えた獣医師や新たな仕事を求める獣医師が気軽に訪れることのできる相談窓口や最も必要とされている代替獣医師の確保円滑化のための人材バンクの検討をはじめ、残されている課題も少なくない。今後、日本獣医師会においてこれらを着実に進めていくことと併せ、「女性獣医師が働きやすい環境はすべての獣医師が働きやすい環境である」ことを、あらためて関係者全員で認識し、獣医師全体のワーク・ライフ・バランス改善、「働き方

改革」のために、これまでのやりかたにとらわれない仕事、働き方の見直しをそれぞれの職場で進めていただくことも提案したい。

女性獣医師支援対策検討委員会からのメッセージ（令和元年6月）

私たち獣医師は、多くの国費を使って育成され、仕事をはじめます。そして、仕事をしていく中で、様々な経験をし、いろいろな方々と交流し、多様な価値観に触れることによって、さらに育てられる。獣医師の活動を通じて、より広い経験や人脈を築いて、人生の幅を広げていただきたい。

今、男性中心だった時代の働き方の見直しが加速化され、多様な価値観の共存が容認されるようになってきた。

女性も男性も、様々な事情を抱えながら仕事をしている。

もし、今は本当に大変でも、やめるのではなく、今できることにしっかり取り組むことで、仕事を続けていただきたい。いずれ事情が許すようになったら、もっと力を発揮していただければよい。

そのことが多様な働き方を認め合う環境づくりにつながっていく。

そしてもし、今はどうしようもなく、退職や休業を余儀なくされたとしても、獣医師としてまた仕事をするをあきらめずにいていただきたい。いろいろな経験をして力をつけ、次のチャンスが訪れるのを待ってほしい。

せっかく獣医師になったのだから、仕事と生活の両方でのびのびと力を発揮して、どうか、自分らしく活躍を続けていただきたい。

私たちは、日本獣医師会の取組みを通じて、少しずつ、働きやすい環境づくりを進めてきた。

これからも、皆さんのお考えを聞きながら取組みを続けていきたいと思う。

職域総合部会 個別委員会 女性獣医師支援対策検討委員会 委員名簿

(平成28～30 年度)

委員長

栗本 まさ子 日本獣医師会特任理事 (日本乳業技術協会代表理事)

副委員長

白戸 綾子 前独立行政法人家畜改良センター茨城牧場長

岩村 舞 オホーツク農業共済組合北見家畜診療所診療係

上松 瑞穂 産業動物に興味のある女性の会 (畜ガールズ) 副会長
(宮崎県農業共済組合生産獣医療センターセンター長)

梶木 富美恵 前神奈川県健康医療局生活衛生部部長

佐藤 れえ子 岩手県獣医師会理事
(岩手大学農学部動物病院病院長・小動物病態内科学教授)

清水 景子 山梨県獣医師会理事 (前山梨県西部家畜保健衛生所所長)

白岩 利恵子 岩手県獣医師会理事
(岩手県獣医師会食鳥検査センター事務局次長)

関 真美子 日本大学生物資源科学部獣医学科獣医外科学研究室専任講師

園尾 美子 グリーンエバー動物病院院長

福原 美千加 神奈川県獣医師会理事 (みかん動物病院取締役)